



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 11 No.3 2010年 9月

さぎ 鷹の宮卓話

研究所長 太田敬雄

7月号で「無認定大学構想」を卓話に記した所、色々な反応をいただいた。文部科学省の認定を受けなくても、施設や設備、あるいは諸々の「数字」にこだわるのではなく、ひたすら世界レベルの教育のみに主眼を置いた大学構想、それもNPO法人国際比較文化研究所立として「安中みどりの大学校」を創設する構想には当然色々な考え方があるだろう。

今日の教育を憂う方々から、賛同の声があるかと思えば、声なき声として「そんなもの、出来るわけがないだろう」という心の叫びも聞こえてきている。しかし、それらの声の中で私に一番響いたのは「大上段に大学校構想を掲げると、いつ始められるかわからない。それよりは、大学校構想は太田個人の消えることない夢として心の奥深くしまい込んで、まずは直ぐにでも良いから、出来る所から・出来ることから始めろ。」という声だった。そこに加えられた「大体、自分の歳を考慮。」は堪えた。そして提案されたのが「太田敬雄の異文化講座」を月一回で良いから始めて見ると言う案だった。それなら直ぐにでも始められる！

もう一つ提案された事には日本の各地のNPOをはじめとする色々な教育にかかわっている団体と提携して、力を合わせて大学校としていくという案だった。現在、NPOが用いている「大学」という表現は、いわゆるカルチャースクールの域を出ない場合が多い。けれども賛同して貰えるNPOをはじめとする団体が力を合わせていけば、本格的な大学校も夢ではないのではないかと。

これらの声には唖らされた。共に三十代の若者の声である。私は常々、社会が大きく変動する時には長い人生の中で、頭の固くなった私のような高齢者が活躍するのではなく、若者が新しい時代の扉を開くと確信している。そして、今がその時代だとの確信を再確認させられた声だった。

話しは変わるが、9・11のテロに対して、ブッシュ大統領が「テロリストへの宣戦布告」をした時、いよいよ国境の無い時代が始まると思った。国を守るために国境を持たないテロリストと戦う発想をせざるを得なかった現実、既に国境が時代遅れなものとなりつつある事を明確に示していたと言えよう。

戦いによって秩序をもたらすというのは、もう古い時代の考え方ではない。国境はすでに無いものと考えて、これからの人間社会の有り方を考え、導いていく時代が来ているが、それにはやはり若い世代の大胆な発想と行動力が必要になる。

しかし、高齢者にもそのような時代だからこそやらなくてはならない仕事がある。元来、若者は年寄り以上に保守的なものである。その若者に大きなビジョンを与え、彼らの中に次の時代への夢を育て、自信を持たせること：これこそが今日の高齢者に与えられている大きな仕事ではないだろうか。

そんな思いを胸に、私自身は、まずは来年初めから早速多文化理解のための概論を月1回のペースで初めて見ようと思う。それが次世代大学への種まきとなるとの確信を持って進みたい。



高山昇さん（74）歳 家族構成/奥様、娘さん2人、お孫さん2人。

現在、群馬芸術文化協会会長、群馬県選挙管理委員会委員長、群馬楽友協会理事長、ぐんまヒートポンプ蓄熱推進協議会会長などに就く。国際比較文化研究所にとっても貴重な会員のお一人です。今回は狩野真由美さんが高山さんのお宅までお邪魔してインタビューをさせていただきました。

Q：早速ですが、高山さんは長い間、副知事をされていらっしやいましたね。

A：はい、平成15年まで8年間、群馬県副知事を務めておりました。

Q：副知事時代、どんなことを大事にして職務に就いていらっしやったのですか？

A：私はフォロアーズシップを大切にしてきました。

Q：フォロアーズシップとはどんなことですか？

A：ワンマンで組織を引っ張るのではなく、組織の人たちが自分の得意なことに気づいて頑張れるような、チームの人たちを育てるようなリーダーシップのことですね。私の生活信条にはフォロアーズシップを軸に3つの考え方があるので、お話しします。

一つ目はイソップ物語の『酸っぱい葡萄』です。キツネがおいしそうに実ったブドウを見つけますが、ブドウは高い所にあるため何度跳んでも届かない。諦めたキツネは「どうせ酸っぱいに違いない」とそこを去ってしまうお話です。本当は甘いブドウなのに勝手な思い込みによって自分を欺く。人は多くの場合、手に届かないものを過小評価することで現状を肯定しようとする傾向があります。

二つ目はサンテグジュペリの『星の王子さま』です。「大切なものは目に見えない、心だけがこれを見ることができる」とあります。目に見えないもの、何が本物か、大切なものをいつも追求していきいと思っています。

三つ目は「常（じょう）を疑う」ことです。政治も経済も社会もどんどん変化しています。今の常を成立させている条件は一体何か、どんな要素なのか次に来る常はいかなる兆しを今の中に持っているのか。今を理解して先に進むことは、とても重要です。

Q：先程のフォロアーズシップのお話に出てきたことですが、人には誰でも得意なことがあるのでしょうか。

A：古代インドの神話に、地上を歩く者はすべて神であると信じられていた。しかし人間がこの無限の力を悪用したので、最高神は人間の心の中に神性（しんせい）をしまいこんでしまったという話があります。神性とはあらゆる可能性の根源、無限の力です。人間は決してそれを探そうとしない、気づかないと考えたのです。つまり、人は誰でも優れた能力を持っている。ただ、そのことに自分自身が気づかない人が多いのです。子どもたちも、悩み努力して得意なことを見つけていってほしいです。そして得意分野が見つかったら、頑張ってもらいたい。その頑張る気持が大切なんです。

Q：フォロアーズシップを行うためのポイントはありますか？

A：人との接触です。話し合いを繰り返すことです。一人ひとりと向き合って、その人の良さを自分自身に気づかせることが重要です。引っ張るリーダーではなく、後ろから押すリーダーシップです。

Q：ところで、将来のことをお聞きしたいのですが、高山さんが考える今後の社会は、どのような社会ですか？

A：これからの社会は三つの顔を持っています。一つの顔は国、地域、人単位で競争をする「大きな競争社会」です。競争がないと社会は発展しません。これは避けて通れないことです。そして、二つ目の顔は「多様な価値観が共存する社会」です。それ故に「豊かさと優しさが同居する社会」でなければなりません。国際比較文化研究所の国際貢献の活動はますます重要な役割となってくるでしょう。太田所長に心からエールを送りたいです。

Q：最後に会員の皆様へメッセージをお願い致します。

A：私自身が国際比較文化研究所の活動になかなか参加できないので、申し訳ない気持ちです。会員の皆様には一人でも多くの方に研究所の活動に参加して、この研究所を育てていただきたい。会員の増加を願うのはもちろんですが、会員の連帯感を強めて、もう一回り大きな国際比較文化研究所になってほしいと思っています。

Q：貴重なお話をうかがうことができました。大変お忙しい中、本当にありがとうございました。

★おかげさまで1周年★

『2010年10月』

記：まなばる代表
太田琢雄 (IIMS 副所長)

■まなばる設立よりこの10月
でついに丸1年。本当に様々な
方々に支えられながら、大幅な規
模拡大へと辿り着きました！ひ
とりでも多くの子どもたちに、成
長の「機会」と「きっかけ」を。
その願いを持って活動させて頂いています。

2010年10月、
2つめの教室
まなばる X-D
OPENします♪



○安中市安中 2456-2 旧「珈琲賛歌」の敷地・建物をお借りしました。
9月には国道18号沿いに大きな看板が立ちました！

■まなばるは「多目的教育施設」です。一般的には「塾」と解釈されることが多いですが、我々自身はここを塾とは定義していません。『現代の子どもたちの成長において、勉強以外にも身につけるべき大切なものがある』私たちはこの信念を持って教育活動を行っており、英語教育などの学習活動は、あくまでその教育活動の中のひとつの要素でしかありません。

■その中でも中心核となるまなばるの教育活動は、子どもたちの「コミュニケーション能力」の育成です。現代の子どもたちが抱えると言われる「コミュニケーション能力低下」という問題と向き合い、彼らに「コミュニケーション」の楽しさや、仲間がいる楽しさを伝えていきたい。他を愛し愛される喜びを知ってほしい。それがマナパルの行動指針です。

◇ ◇ ◇ この10月からの主たる活動は、以下の通りです♪ ◇ ◇ ◇

ご質問・ご意見等、お気軽にご連絡下さい。

連絡先：027-386-8499 (まなばる) 080-6612-9636 (太田琢雄携帯)

みんなでなかよく、英語で遊ぼう♪

びび英会話クラブ

※平日新クラス10月スタート※

①未就学児向け (3~6歳程度)
◇月~金曜日 (1回45分) ◇月謝 **3000円**/月4回
(時間・場所は下記参照)

②小学校低学年向け (1~3年生程度)
◇月~土曜日 (1回50分) ◇月謝 **3000円**/月4回
(時間・場所は下記参照)

英語もコミュニケーションも楽しい☆
『だから、好きになれる♪』
そう確信する『英語のエキスパート
たち』が作り出す、子ども向け英語
クラスです！しゃべって、歌って、
ゲームして☆子どもたちはニコニコ
しながら英語を身につけていきます♪

中学生・高校生・社会人
個別英語教室

- 中高生対象の個別指導
- プライベートレッスン
- ネイティブレッスン

小・中学生のお勉強部屋
MANAPAL'S STUDYHALL
スタディホール

- 算数や数学もまなばるで♪

◇楽しく「英会話」& 中学英語に備えた「文法授業」◇

**英語高学年向け
クラス**

※平日新クラス10月スタート※

小学校高学年向け (4~6年生程度)
一少人数制クラスですー

◇月~金曜日 (1回50分)
◇月謝 **4000円**/月4回
(時間・場所は下記参照)

「子どもたちが英語の何でつまずくか!？」
長年英語教育に携わり経験を積んで
きたマナパル講師陣は、そのポイント
を熟知しています！ここで学んで
おけば、中学校英語も安心♪

otona 英会話 cafe
おとなの 英会話 カフェ

- お茶と英会話で団らんしませんか♪

お子様に関する悩みは…
まなばる相談室

- まなばるが最も地道に、真剣に、
取り組んでいきたい活動です。

『皆様へのお願い』

マナパルの活動のご理解頂き、ご支援・ご協力頂いている会員の皆様・地域の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます！規模拡大に際し、今後もご寄付その他の援助は、運営上はもちろん、本当に本当に大きな心の支えとなります。皆様の温かいご理解・ご支援・ご協力に心から感謝致します。子どもたちの成長への希望と、この活動への期待にお応えできますよう、弛まず邁進していく所存です！

(他事業へのご寄付同様、決してご寄付を強要するものではありません。ご了承下さい！)

「多文化交流 in 釜山 2010 夏」報告

春に続いて8月に「多文化交流 in 釜山」を実施した。今回も釜山外国語大学の日本語学科の先生方、林（イム）先生と梶原先生、さらにはイム先生のサークル、韓日伝統文化研究会「のびのび」の学生達の努力で、実に素晴らしい交流プログラムを実施する事ができた。



→ <上の写真の左端がイム先生>

到着翌日から二泊三日のホームステイ。それぞれに大いに楽しみ、交流を深めてきたようである。

右の写真は韓国のお茶の作法の体験。正座している男性が主人（もてなし役）四人の女性がお茶を振舞って貰う客。お茶の先生の指導に従って真剣にお茶を入れ、味わう時間だったが、日本の煎茶や抹茶の作法とのつながりが見えて、相互の文化の深いつながりを知る上でも貴重な体験だった。

それにしても、この時のお茶は香りも良く、実に味わい深かった。

プログラムの全てを詳細に報告出来ないのが残念だが、何人もの学生達が次のプログラムにも参加したいと言ってくれたことに、今回の多文化交流が如何に楽しく、意味深いものとなったかを証明している。韓国の学生も、冬のインドネシアでの多文化交流に参加したいと言っていた。もしかすると三国の交流のプログラムになるかもしれない…と私は密かにワクワクしている。

春に続いてのプログラムで有ったにもかかわらず、生涯記憶に残るであろう素晴らしいプログラムを組んで下さった釜山外大の皆さんに心から御礼申し上げたい。

次回は年明けのインドネシア。マランの二月ごろにはどのような新しい発見が有るのだろうか。

経費の関係で夜遅くになって初日の歓迎会が開かれ、最初はぎこちなく始まったが、食事と宴会が進むにつれて、釜山外大の参加者と研究所の参加者は一気に垣根を取り払い、僅かな時間で二つのグループは一つの集団と化していた。私がいつも感じることだが、特に若い人たちの中では、相互理解が友情を生むのではなく、友情が相互理解を育てる。

今回の多文化交流もその確信を証明してくれたと思う。

この写真は歓迎会の後、会場の前で撮影した記念写真だが、もう既に国境は消えていた。

こうして7泊8日の交流が始まった。 →



ウィラスティ、文科省の招聘留学生として来日予定！

第一回のインドネシア招聘生として、2008年の1月にイチャさんと共に来日した招聘生第一号の



ウィラスティさんが、10月から文科省招聘留学生として山形大学に一年間留学する事に決定。ウィラスティさんは第一回の「多文化交流 in マラン」でインドネシア側の学生として参加、第二回からはスタッフとして交流を支えてくれた陽気でエネルギッシュな人です。今は先生として日本語を教えています。

最初に会った時から留学を夢見ていたウィラスティさん、留学体験が日本との絆をさらに深めてくれる事を祈っています。

<写真は招聘生として来日した折の一コマ。右端がウィラスティさんです>

前橋市でパネル展

前橋市市民活動支援センターでは、この9月から11月末にかけて

同センターに登録している団体の活動紹介パネル展を開催しています。既に9月6日からはじまり、二週間のあいだ六団体がパネルを展示しています。国際比較文化研究所もこのパネル展に参加します。お近くの方はぜひ一度足を運んでください。

期日：10月18日（月）～10月31日（日） 多様な団体と共に、展示コーナーを持ちます。

会場：前橋市市民活動支援センター 371-0023 前橋市本町2-12-1 前橋プラザ元気21 3階

Tel: 027-210-2196 Fax: 027-237-0810 E-mail: 21@pepo-c.com

同時開催の講演会

このパネル展の期間中には、同じ場所で所長の講演会を開催します。「太田敬雄のわがままトーク」になりそうですが、お聞きくださる方が居られれば幸いです。ぜひ足をお運びください。講演時間はわずか30分～60分です。この機会に久しぶりの会員の方々ともお会い出来ればと思っております。

講演題：「春樹と真知子のすれ違い：多文化交流の基礎」一体どんな話になるのか、話し手本人も解らないものになります。こちらから出す「お題」の中から聴衆の方々に興味のあるものを選んでいただいで、それについて話させて頂く予定です。

期日：10月23日（土）午後1時半から約1時間 会場：前橋市民活動支援センター

太田敬雄の「心にひびく異文化概論」

鷲の宮卓話にも書きましたように、2011年1月から異文化概論を月一回のペースで開催します。太田敬雄のワガママ講座ですが、「日本は本当に国際化社会になったのか」を問いつつ、異なる文化を背景として持つ人々の文化・価値観を学び、人々が共に生きていく時代を考えてみたいと思っています。

「大学でしか聞けなかったあんな話、こんな話」を楽しくお茶の間に届けたいと思っています。

◆◆毎月1回・第2土曜日（変更の可能性あり）に実施の予定。（内容の詳細は後日発表します！）◆◆

■時間 午後2時から3時半 お茶、珈琲でも飲みながら。

■参加費 講義1回につき 1000円。大学生は500円。高校生以下は無料。当日会場にてその回の参加費を徴収させていただきます。たった1回だけの参加でも、もちろん大歓迎です。12回程度の実施を考えていますが、これは様子を見ながら決定します。ただし：

3回連続で出席した場合は4回目は無料！・・・目指せ、全クラス受講！

■場所「まなばるXD」…379-0116 安中市安中2456-2（旧『珈琲賛歌』）※安中市国道18号線バイパス沿い、ヤマダ電機の向い。高崎方面からこられますと右側、カラオケ「まねきねこ」の手前の大きな看板が出ています。広い駐車場の奥にある洒落た洋風の二階建てが「まなばるXD」です。



■講師 太田敬雄。現在「異文化概論」の構想を夢見つつこのページを作成中。

■講師経歴 1942年生まれ。現在安中市在住。アメリカの高校数学教師から始まり、今日までに公立・私立の高校、国立・私立の大学・短期大学で主に英語と比較文化を担当してきた。「教えるのではなく、学ばせる」をモットーに、44年の教員生活。現在も3大学で非常勤講師を勤める。

日本比較文化学会名誉会長。元日本放送芸術学会会長。今年度より安中市男女共同参画委員会委員長。フルブライト上級研究員として渡米の経験有り。

■参加ご希望の方はあらかじめご連絡頂ければ幸いです。Fax: 027-382-6393
メール: totatakao@yahoo.co.jp（葉書も可）お名前、フリガナ、ご住所、メールアドレス、性別と年齢をお知らせください。後日、詳細をご連絡致します。

この講座をパイロット・プロジェクトとして、来年度以降、色々な方のご協力を得て幾つかの講座を開催して参りたいと考えております。「こんな講義を受けて見たい」などの希望がございましたら、同じく上記までご連絡下さい。会員の皆様と明日の研究所、明日の日本、世界を考え、その創造の一端を担う所まではいかなくても、夢見て参りたいと思います。

☆会費納入とご寄付のお願い☆

振込用紙を同封しますので、研究所の活動をお支え下さい。年会費は個人が2000円です。研究所の活動のためにご協力をお願いします。今年度の会費未納の方にはその旨を記した振込用紙を、すでにお振り込み下さった方にはご寄付下さる方のために振込用紙を同封させていただきますが、決してご寄付を強要するものではありません。

多くの会の活動に参加出来ない会員にとっては、ニューズレター発行を除けば、会費は会の活動を支える寄付の様相を呈しています。それにもかかわらず大勢の会員に支え続けていただいていることに心から感謝しております。

マナパルの活動も、10月からは「まなぱる XD」を第二の拠点としてさらなる発展を計画しております。昨年10月からスタートした「まなぱる」は、参加者からは大いに喜ばれていますが、本当の「勝負」は二年目ではないかと思えます。

インドネシア人学生招聘事業「多文化交流 in 関東」も継続します。このプログラムの実施は全面的に皆様のご寄付に依存しております。日本語を積極的に学び、日本訪問を夢としてはいても、私費での来日は難しいインドネシアの若者達のために今年度も宜しく申し上げます。

◇新たな会員勧誘のお願い◇ 新しい会員をお誘いください。入会に条件はありません。国際比較文化研究所の活動に賛同し、年会費2000円をお支払いいただける方は、どなたでも大歓迎です。これからの世界平和実現を願いつつ多様な教育・文化活動をつづける研究所の活動に、賛同して下さる方々の一人でも多くがご参加くださるようお願いいたします。

会費・寄付(2010. 7. 12. ~2010. 9. 15.)

<敬称略>

<新入会員> 前号で内田瑞穂新入会員をご紹介しましたが間違いがありました。正しくは内田穂積さんでした。お詫びして訂正します。 今回の新入会員：岩瀬裕理子、荒井美里、浦瀬慎也、大場賢太、阿部優紀、落合清香、瀧川咲、江口瞳、飯島麻理、飯塚みやび、岩丸愛、木村暢、中村亮太、羽田敬宏、舟木輝、中里春太郎。

<会費> (注：特にカッコ記載のない場合は2010年度分です。) 今井睦子、中易圭子、中司和雄、落合清香、江口瞳、瀧川咲、木村暢、飯島麻理、阿部優紀、荒井美里、浦瀬慎也、舟木輝、岩瀬裕理子、中村亮太、飯塚みやび、佐藤直樹、山崎利夫、金井美由紀、飯田俊、岩丸愛、小林慎樹('08・09・10)、中里春太郎('10・11)、長谷川路子、新井隆、小坂景子、熊倉浩靖、鈴木武仁。皆様の変わり無いサポートのおかげを持ちまして活動を徐々に広げていく事が出来ております。有難うございます。

<「インドネシアより招聘」「多文化交流 in 関東」指定寄付>御協力有難うございます。今年度も是非インドネシアからの招聘プログラムは継続して参ります。次回の「多文化交流 in 関東」(名称を変更して実施しました)にこれまでも劣らぬご協力をお願いします。金井美由紀、長谷川路子、菅ヶ谷マコ。<マナパル 指定寄付>マナパルがさらなる飛躍を準備しておりますなか、心強いお支えに感謝します。教育活動の支えとして有効に活用させていただきます。渡部恵知子、村井田和夫。

<一般寄付> 花盛勲一、渡部恵知子、山崎利夫、村井田和夫、関千景。

有難うございます。必要とされる所も多くなってきました。有効に使わせて頂きます。

編集後記：実はこれまで一年間、月一回『通信協会雑誌』に「新・子育て考」を書かせて貰っておりました。最終回のタイトルは「弱点を活かす」とさせてもらいました。

人は皆、弱い所を持っています。その弱点を自分の武器にするにはどうすれば良いのか。私のような無精者は、弱点を無くす努力が大の苦手でした。そこで私は若い頃から自分の弱点を逆手に取って武器にする事を考えていました。そして、弱点は人の最も素晴らしい面の裏返しでしかないと悟りました。以来、私は自分の弱い所を人様に晒し、それを活かして生きることを実践するようになりました。

この研究所も、このニューズレターも弱い所だらけです。完全ではないところを皆様が補ってくださる。そこに国際比較文化研究所の魅力が有ると信じています。これからも皆様のお力を貸して下さい。(T)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3
電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393
e-mail：mtharunac@xp.wind.jp
HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthac>
郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所